

## 第二次

# 小城市子どもの読書活動推進計画

「子どもの笑顔が輝く」小城市



平成27年7月

小城市教育委員会

## 構成（目次）

第1章	第二次小城市子どもの読書活動推進計画の策定にあたって	1
第2章	第一次計画における取組状況と成果	2
1	子どもの読書活動推進のための方策	2
	（1）家庭における子どもの読書活動の推進	
	（2）地域における子どもの読書活動の推進	
	（3）幼稚園・保育園における読書活動の推進	
	（4）学校における読書活動の推進	
2	子どもの読書環境の整備・充実	4
	（1）家庭における子どもの読書活動の整備	
	（2）地域における子どもの読書活動の整備	
	（3）幼稚園・保育園における環境の整備・充実	
	（4）学校図書室の整備・充実	
	（5）市民図書館の整備・充実	
	（6）子どもの読書活動の啓発、広報	
第3章	アンケート結果から見た小城市の子どもの読書の現状と課題（分析）	7
	（1）小学生・中学生のアンケート結果	
	（2）保護者のアンケート結果	
第4章	これからの子どもたちの実りある豊かな読書活動に向けて ～第二次小城市子どもの読書活動推進の基本方針～	15
1.	基本方針	
2.	計画の目指すもの	
3.	計画の期間	
第5章	子どもの読書活動の推進のための具体的方策	15
1.	家庭における子どもの読書活動の推進	
2.	地域における子どもの読書活動の推進	
3.	学校等における子どもの読書活動の推進	
4.	民間団体の活動に対する支援	
5.	普及啓発活動	
資料編	アンケート調査結果	

## 第1章 第二次小城市子どもの読書活動推進計画の策定にあたって

平成22年4月に「第一次小城市子どもの読書活動推進計画」が策定されました。策定後、5年が経過しその間小城市では推進計画の実現にむけて様々な取組を行いました。

策定後、平成25年3月に小城市教育振興基本計画、小城市生涯学習振興基本計画が策定され、基本目標に「<sup>じょうそうでんしん</sup>城創伝心—小城の歴史と伝統を受け継ぎ、文化を創造する豊かな心をはぐくみ後世へ伝える人づくり—」を実現するため7項目の施策が設定されました。その一つに生涯学習の充実があり、図書館利用の推進が盛り込まれました。そのなかで図書館運営の充実・学校図書館との連携及び支援・自動車図書館本丸くんサービスの充実・小城市子どもの読書活動推進計画の実現を目指しています。また、平成25年5月には国の「第三次子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」が策定されています。

これらの上位計画を指針とし、これまでの成果と問題点を踏まえ平成27年7月に第二次小城市こどもの読書活動推進計画を策定しました。

## 第2章 第一次計画における取組状況と成果

### 1 子どもの読書活動推進のための方策

#### (1) 家庭における子どもの読書活動の推進

##### 【取組状況と成果】

- ① 平成23年度から各町4保健福祉センターの健診会場において、ブックスタート関連事業（にこにこルーム）を実施し、乳児とその家族に読み聞かせの体験をしてもらうことができました。（小城市社会福祉協議会・健康増進課・市内おはなしボランティアグループと協力連携）
- ② 毎月1～2回児童センターへ出向いておすすめ本の紹介をし、おはなし会（ゆうゆうキッズ事業）を実施
- ③ 各館、分室それぞれにおけるチラシ（子ども向けおすすめの本）を作成し配布
- ④ 市内団体・おはなしボランティアグループとの協働イベントの開催
- ⑤ ブックリサイクル（資料の再利用を目的）の実施

#### (2) 地域における子どもの読書活動の推進

##### 【取組状況と成果】

- ① 乳幼児（6ヶ月～8ヶ月）とその家族を対象に各町4保健福祉センターに出向き、市内おはなしボランティアグループと協働でブックスタート関連事業を実施しました。乳幼児と保護者が、絵本を介してゆっくり心ふれあうひとときを持つきっかけをつくりました。
- ② 平成25年度からおはなしボランティア協議会の発足  
団体登録の推進、ボランティアグループ相互の情報交換、市民図書館からの情報提供がスムーズに行われました。
- ③ 除籍資料の優先譲渡  
保育園・幼稚園・認定こども園・認証保育施設・小学校・中学校
- ④ 公共施設（ドゥイング三日月・桜城館・牛津公民館・芦刈地域交流センター）でのおはなし会の実施
- ⑤ 平成24年3月芦刈分室リニューアルオープン
- ⑥ 読み聞かせなどのボランティア活動への支援  
おはなしボランティアグループ交流会の開催、大型絵本などの貸出促進を行いました。
- ⑦ 障がいのある子どもへの読書活動の支援  
図書館見学の受入、絵本の読み聞かせなど実施しました。

### (3) 幼稚園・保育園における読書活動の推進

#### 【取組状況と成果】

##### ① 読み聞かせの活動等

すべての幼稚園・保育園・認定こども園・認証保育施設が保育の時間中や昼寝前など1日に2～3回読み聞かせを行っています。また定期的に地域のおはなしボランティアグループに来園してもらい読み聞かせが行われている園もあります。

また、読み聞かせの大切さや楽しさを保護者へ伝えるよう取り組んでいます。

##### ② 読書活動推進の取組

園児への貸出を実施している保育園が3園、認定こども園が3園あり、園児が絵本や物語に親しむ機会を増やす活動に取り組んでいます。

### (4) 学校における読書活動の推進

#### 【取組状況と成果】

##### ① 学校図書室の読書活動

市内すべての小・中学校が学校図書室だよりを発行し、読書啓発を行っています。また小学校では、「読書の記録」をつけたり読書の目標を決めるなど独自の読書活動促進の行事を実施する中で、読書習慣を身につけ、読書の幅を広げるような取り組みをされています。市民図書館を活用した調べ学習についても実施し、様々な文章や資料を読んだり調べたりするなど体系的な読書活動が行われています。

##### ② 朝読

市内すべての小・中学校が定期的に授業開始前などに「朝の読書」を実施しています。毎朝実施する学校もあります。また、定期的に地域のおはなしボランティアグループによる朝の読み聞かせを実施している学校もあり、朝読に活発に取り組まれています。朝読は読書習慣を身につけるだけでなく、その後の授業に集中できるなど効果が認められています。

##### ③ 家読

市内のほとんどの小学校で実施しています。方法としては、親子読書カードや読書カレンダーを作成するなど様々なやり方で取り組まれています。中学校は生徒自身にそれだけの余裕が無い（部活動や勉強、課外活動）に難しいところがあります。

##### ④ 読み聞かせの活動

市内すべての小・中学校が朝の時間・昼休みなど、また図書館まつりなどの行事のなかで読み聞かせ事業を実施しています。定期的におはなしボランティアグループによる読み聞かせを実施している学校もあり、市民図書館からの出張おはなし会も実施しています。

おはなしをとおして本のすばらしさを伝え、興味へ繋ぐ機会となります。

## 2 子どもの読書環境の整備・充実

### (1) 家庭における子どもの読書活動の整備

#### 【取組状況と成果】

- ① 小城市社会福祉協議会より、出生届を提出された保護者に絵本を選んでいただき手渡しています。市民図書館が行っているブックスタート関連事業では、その絵本を紹介し読み聞かせの体験をしてもらい、家庭でも絵本を開いてみようというきっかけにつながるよう取り組んでいます。
- ② 定期的なおはなし会の開催や自動車図書館「本丸くん」を巡回することにより市民図書館や学校図書室を身近に感じ、たくさんの本に接する機会を持つよう働きかけました。

### (2) 地域における子どもの読書活動の整備

#### 【取組状況と成果】

- ① 小城市生涯学習センターが中心となり、生涯学習の拠点である公民館と各4町の保健福祉センター、また児童センターなど施設の特性を活かした施設・設備の充実が図られ、その施設において地域のおはなしボランティアグループと協働でおはなし会の実施やブックスタート関連事業などに取り組みました。

### (3) 幼稚園・保育園における環境の整備・充実

#### 【取組状況と成果】

- ① 園で所蔵している絵本などの状況  
すべての幼稚園・保育園・認定こども園・認証保育施設が図書室や絵本コーナーを設置しており、子どもが本に興味をもち、親しむことのできる環境整備が図られています。
- ② 読書活動推進の取組  
園児への貸出を実施している保育園が3園、認定こども園が3園あり、読書活動の重要性を認識した活動を実践していることが分かりました。また、ほとんどの幼稚園・保育園・認定こども園・認証保育施設が絵本など図書を購入し、所蔵資料の充実に取り組んでいます。

### (4) 学校図書室の整備・充実

#### 【取組状況と成果】

- ① 相互貸借  
学校図書室と市民図書館とのネットワークによる相互貸借（資料貸出）を開始し、市民図書館の資料を学校で貸出ができるようになりました。
- ② 読書活動

地域のおはなしボランティアグループと連携した読み聞かせや授業開始前の「朝の読書」が実施されています。

③ 学校図書室を活用した授業の実施

国語、社会、理科、総合的な学習の時間、特別活動などで学校図書室を使って授業を実施されています。

④ 学校図書室活用の条件整備

小城市では、学校図書室の専任職員として全小・中学校に学校図書室司書を配置し、司書教諭と連携し、児童生徒がいつでも学校図書室を活用できる体制を整えています。

文部科学省児童生徒課がまとめた平成24年度「学校図書館の現状に関する調査」結果では、学校における学校図書館図書標準の達成状況は、小城市の小学校は75%から100%未満が1校、100%以上達成が7校、中学校は、75%から100%未満が3校、100%以上達成が1校となっていました。

今回実施しました読書活動についてのアンケート調査の結果による達成状況は、小学校は75%から100%未満が1校、100%以上達成が7校、中学校は、75%から100%未満が1校、100%以上達成が3校となっていました。

※学校図書館図書標準

学校図書館の整備を図る際の目標として、平成5年に文部省（当時）が設定したもので、学級数に応じて必要な標準蔵書冊数を示している。

## （5）市民図書館の整備・充実

### 【取組状況と成果】

- ① 子ども向け資料の充実 89,925冊（平成25年3月31日現在）  
児童書の貸出冊数 平成25年度（136,428冊）
- ② 保育園・幼稚園・学校への自動車図書館「本丸くん」の巡回
- ③ おはなし会の実施（全館）  
平成25年度は、年103回実施し1,393人の参加がありました。  
でっかいおはなし会を平成25年度に年5回実施し169人の参加がありました。
- ④ 平成23年度からにこにこルームを実施  
平成25年度は、年12回実施し、332人の参加がありました。
- ⑤ 学校図書室職員との合同研修会  
年1回、学校図書室と市民図書館とのネットワーク研修を実施しています。
- ⑥ 平成24年3月芦刈分室リニューアルオープン  
テーマを決めた図書の展示（毎月）や読書活動推進イベントを実施しました。

## (6) 子どもの読書活動の啓発、広報

### 【取組状況と成果】

- ① ホームページ上での新刊書の紹介  
毎月、こどもとしょかんだよりやティーンズの新刊案内を発行しました。
- ② 図書館見学受入  
市内保育園・幼稚園・小学校、特別支援学校から見学を受け入れています。  
図書館の利用の仕方や館内の案内、おはなし会などを行っています。
- ③ 一日図書館職員体験実施  
年2回（三日月館・小城館）行い、子どもたちに図書館業務を体験してもらっています。
- ④ 平成24年3月より図書館システムを統一し学校図書室とのネットワークの開始
- ⑤ 夏休み子どもひろば
  - ・本丸くん緑陰おはなし会  
市内保育園に出向きおはなし会を行っています。
  - ・子ども向け講座  
夏休みには、「小城のお宝バスツアー」、「小城のお宝絵画・調べ学習コンクール」を行い、多くの参加者があり、地元の歴史や文化などにふれてもらっています。



### 第3章 アンケート結果から見た小城市の子どもの読書の現状と課題(分析)

このアンケートは、第一次小城市子どもの読書活動推進計画の見直しにあたり、小学3年生、小学5年生、中学2年生、5歳児の保護者、及び幼稚園・保育園・認定こども園・認証保育施設、小学校・中学校の読書活動の現状を把握するために、平成26年9月に実施しました。

子どもの読書活動については、市内の小学校3年生、5年生及び中学2年生を対象に各4校からそれぞれ1クラスを選び、アンケートを行いました。

保護者については、市立幼稚園、市立保育園、私立保育園、認定こども園、認証保育施設から各1園を選び5歳児の保護者にアンケートを配布し、回収しました。

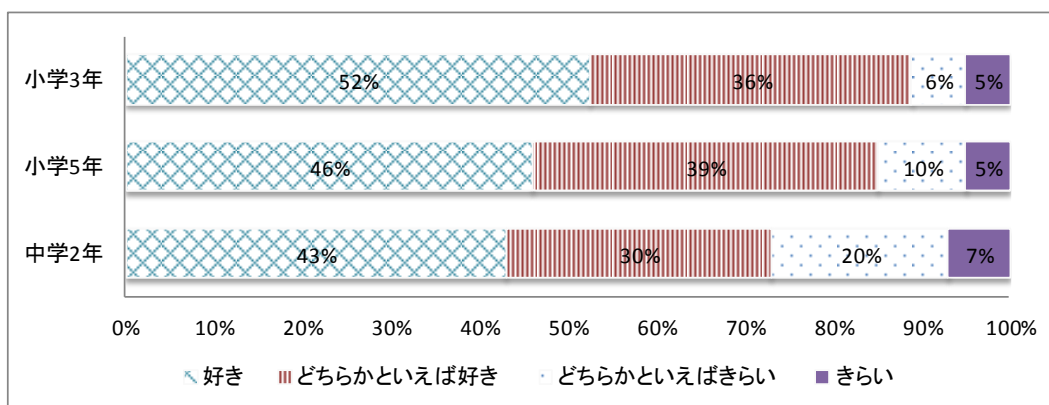
また、市内の小学校7校・中学校3校・小中一貫校1校、市立幼稚園3園・市立保育園4園・私立保育園3園・認定こども園3園・認証保育施設3園について、読書活動の現状と課題を把握するためにアンケートを行い全施設から回答をいただきました。本章ではその一部を紹介します。

#### (1)小学生、中学生のアンケート結果

##### 【本への興味】

読書の好き嫌い、インターネットや携帯電話での情報源、読み聞かせなど、子どもたちと読書との関わりについて調査しました。

##### 質問 本を読むことが好きですか

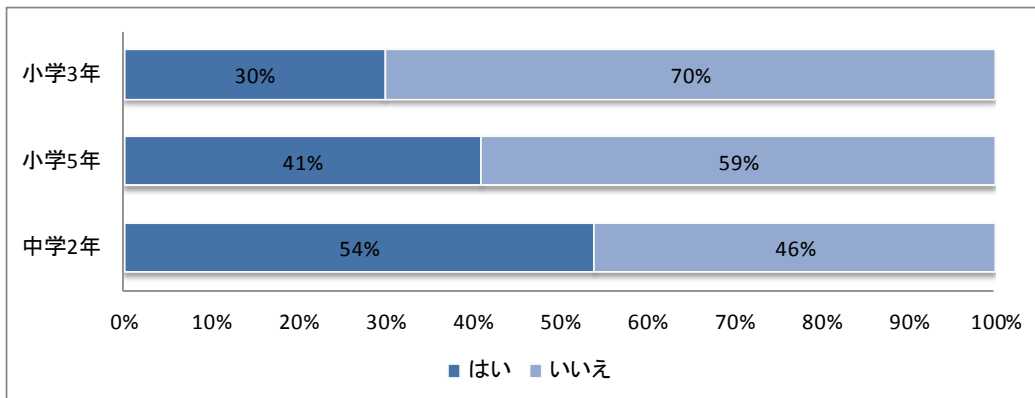


読書の好き嫌いに関する質問です。

小学3年生は、100人(88%)が、小学5年生では92人(85%)が「好き」「どちらかといえば好き」と答えています。中学2年生は、90人(73%)が「好き」「どちらかといえば好き」と答えています。一方、「読書が嫌い」「どちらかといえば嫌い」と答えた小学3年生で13人(11%)、小学5年生16人(15%)、中学2年生では、33人(27%)という結果でした。

全体では、読書好きの子どもが(282人)82%と多いことが分かりましたが、学年が上がるにつれ読書が嫌いと答える子どもが増えており、低学年のときの読書習慣が継続していくよう支援していくことが求められています。

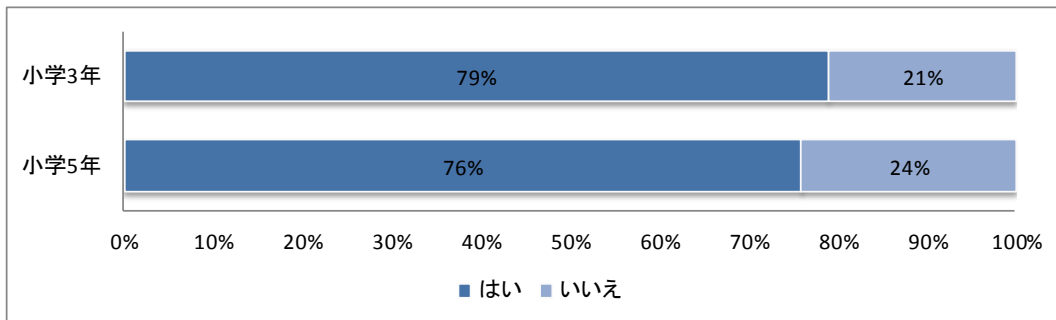
**質問 インターネットや携帯電話で物語やマンガなどを読みたいと思いますか**



インターネットが身近にあり、電子書籍も徐々に普及してきている状況にあって子どもの関心がどうなのか質問しました。

小学3年生は、33人（30%）、小学5年生は72人（41%）、中学2年生では66人（54%）が「はい」と答えています。中学2年生になると「はい」が「いいえ」を上回っており、学年が上がるにつれインターネットに関心が増していることが分かります。

**質問 読み聞かせ(学校、図書館での読み聞かせ含む)は楽しいと思いますか**



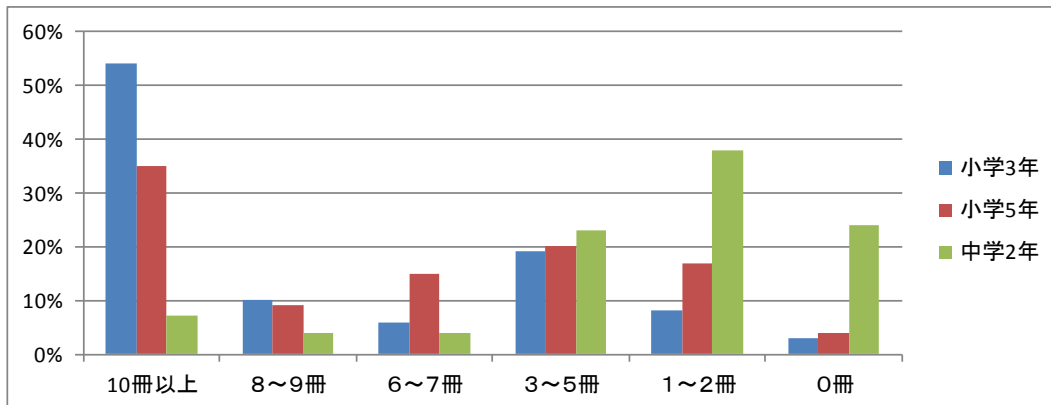
中学生への読み聞かせは機会が少ないので、小学生のみ質問しました。

小学3年生、小学5年生では約80%が楽しいという結果でした。しかし、「いいえ」と答えた児童が2割を超えており、小学5年生では25人（24%）で約4人に一人となっていますので、今後の取組を計画するうえで、対応が必要と考えられます。

**【子どもたちの実態】**

子どもたちの読書に対する考え方や、日常の実態について調査をしました。

**質問 1か月に何冊本を読みますか**



読書量についての質問です。全体では、月1冊以上本を読む子どもが89%と全体の約9割を占めています。

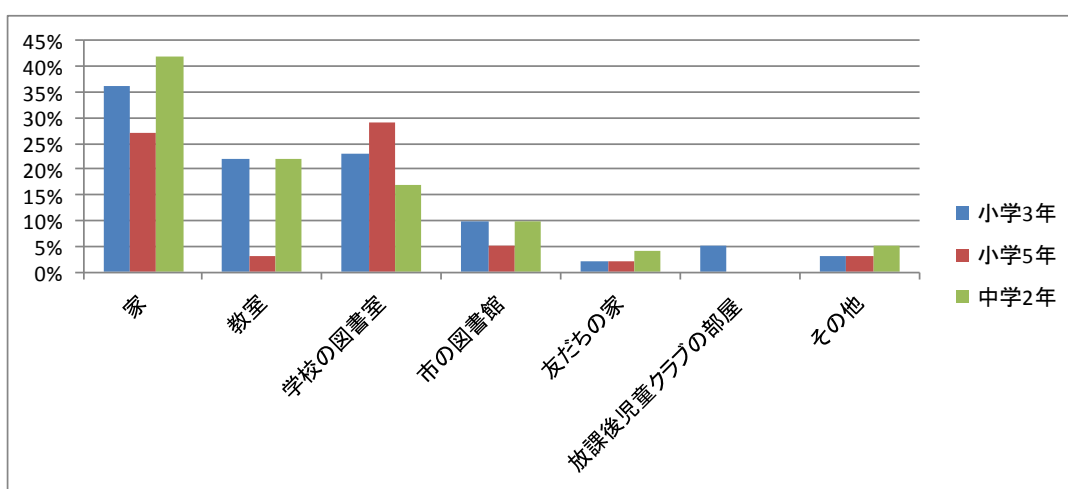
学年別では小学3年生が110人(97%)、小学5年生が100人(96%)、中学2年生は94人(76%)となっています。

小学3年生で10冊以上が50%を超えるなど積極的に読書していることがうかがえます。

ところが、中学2年生になると「月に1~2冊」が47人(38%)「月に0冊」が30人(24%)と学年が上がるにつれ本を読まない子どもが増える傾向にあります。今後この世代の支援が必要といえます。なお、子どもが本を読まない理由として、「スポーツ教室(部活動)がある」、「読みたい本がない」「宿題や勉強がある」といった理由によるものです。

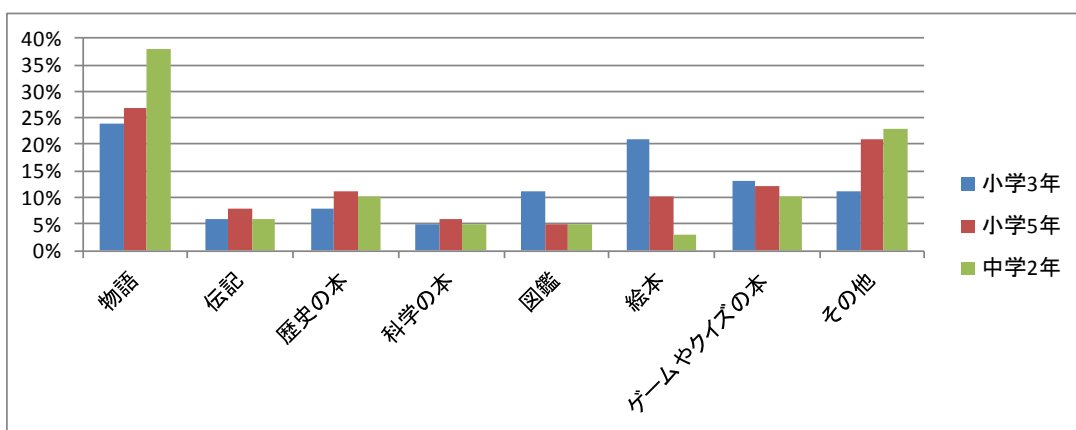
中学生で冊数が減少しているのは、1冊をじっくり読むということも考えられます。

### 質問 どこで本を読むことが多いですか



全体的に家、教室、学校の図書室という結果で、身近な場所での読書が多く、市の図書館の利用は10%程度、放課後児童クラブでは、11人(5%)と少ない結果となっています。

### 質問 あなたがよく読む本を教えてください

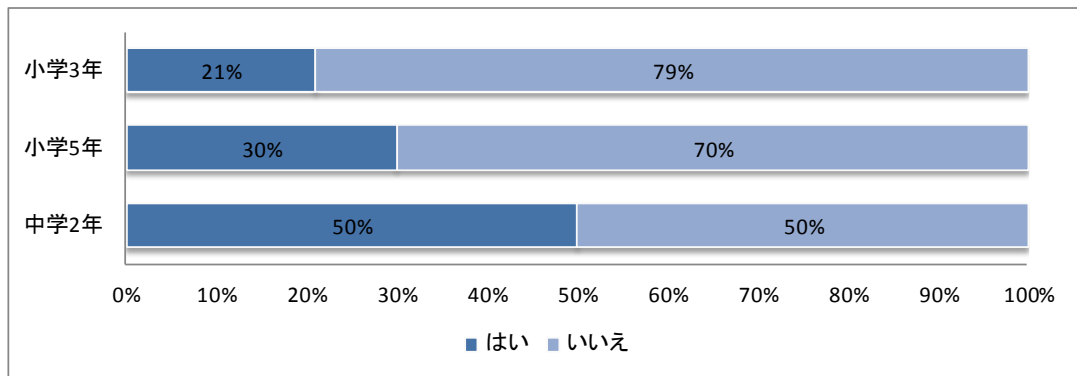


子どもたちが興味のある本は、「物語」が一番多く、次いで「ゲームやクイズの本」でした。

小学3年生は、絵本や図鑑の割合が他の学年より多い傾向にあります。

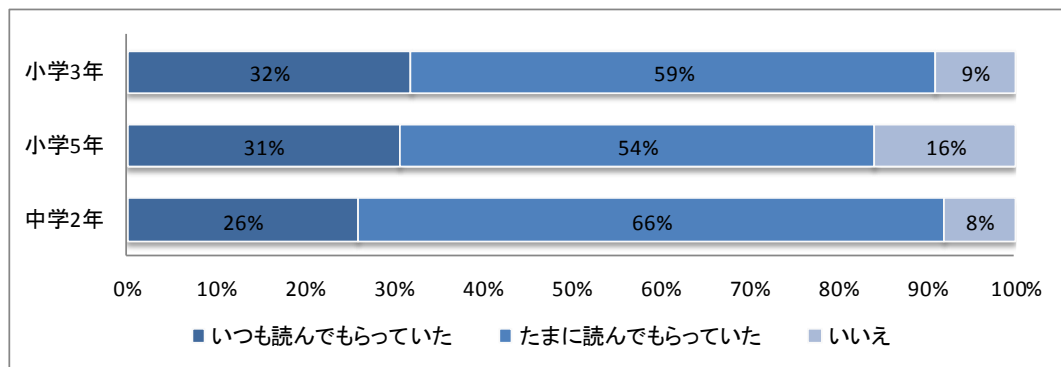
小学3年生、小学5年生、中学2年生とも似た傾向が見られます。

**質問 インターネットやけいたい電話で物語やマンガなどを読んだことがありますか**

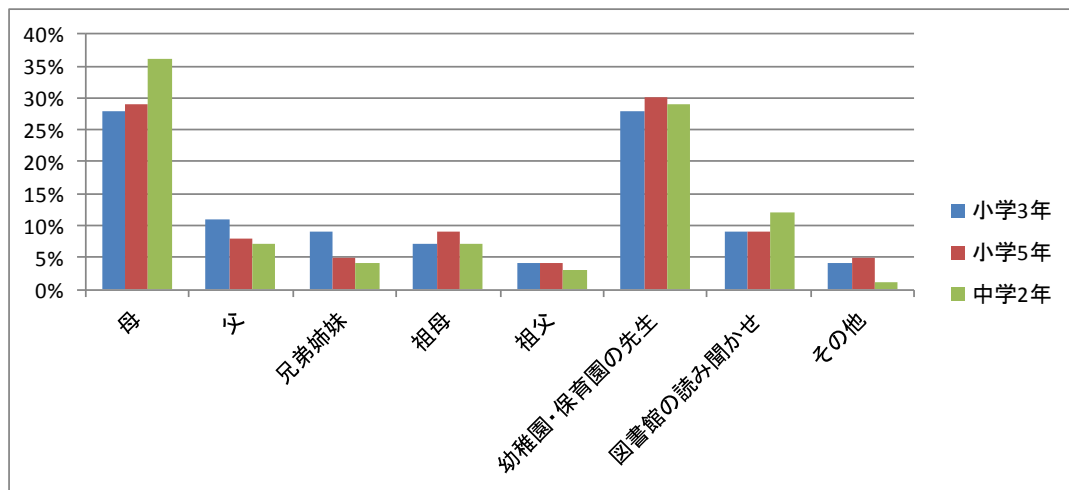


小学校3年生、小学5年生、中学校と高学年になるに伴いインターネットや携帯電話で電子書籍などを読んでいる割合が高くなっており、中学生では半数となっています。

**質問 小さいとき(小学校入学前)本を読んでもらったことがありますか**



**質問 「読んでもらった」に○をつけた人に聞きます だれが本を読んでもらえましたか**



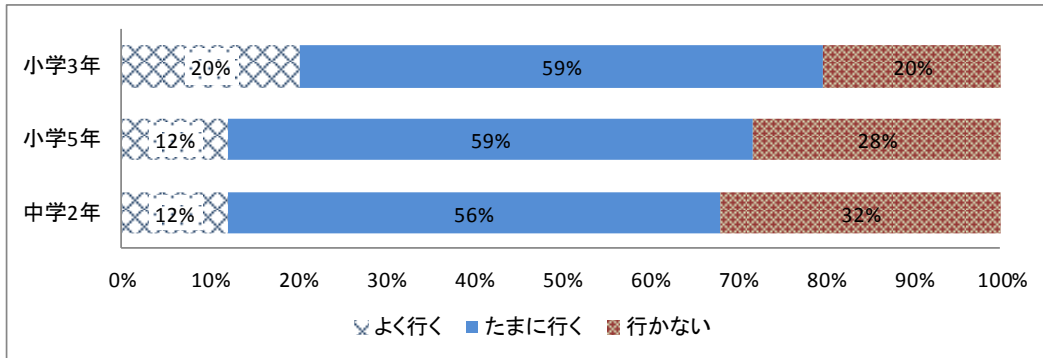
本を読んでもらっていたことがあると答えた人が80～90%でした。

「母親」と「幼稚園・保育園」の先生が30%づつを占めています。幼稚園・保育園の読み聞かせへの熱心な取り組みが現れてきていると考えられます。図書館の読み聞かせは約10%となっています。

## 【子どもたちの施設利用】

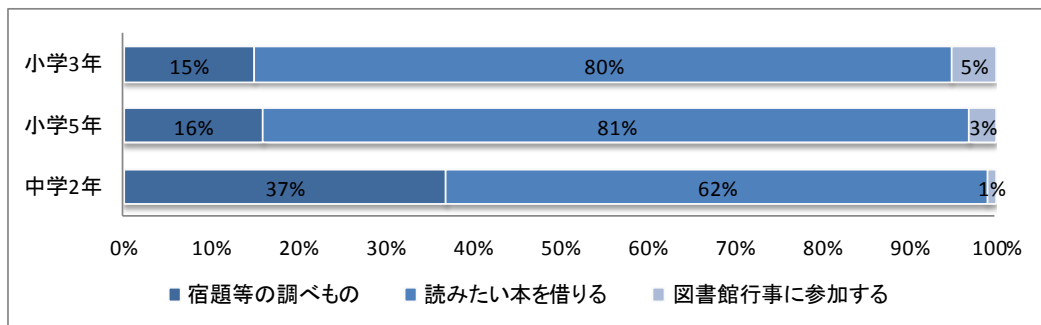
子どもたちの図書館への利用率の向上を図る上で、利用状況の現状を把握するため調査しました。

### 質問 市の図書館(三・小・牛・芦)に行きますか



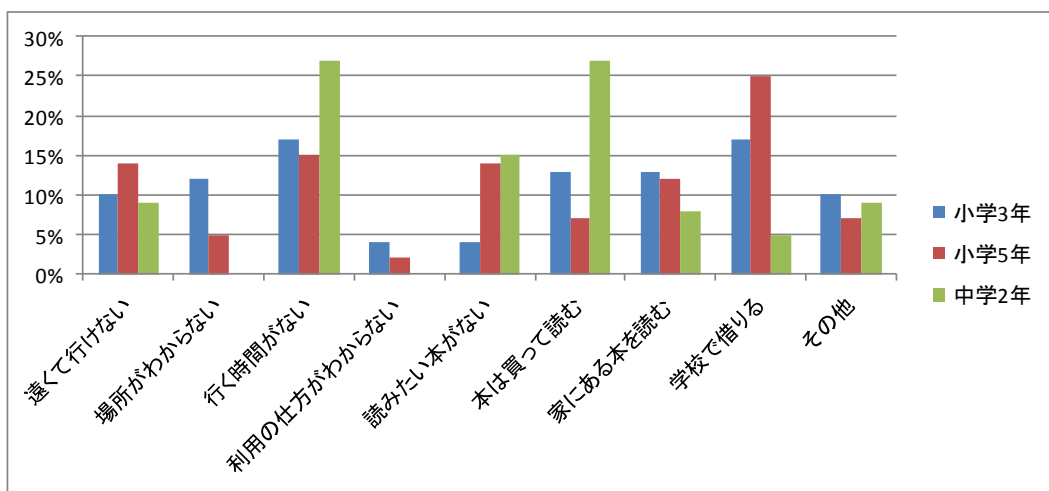
小学3年生が23人(20%)、小学5年生が30人(28%)、中学2年生が39人(32%)が市の図書館を利用しないという結果でした。学年が上がるにつれ利用しなくなる子どもが増える傾向にあります。

### 質問 市の図書館へ「よく行く」「たまに行く」に○をつけた人に聞きます どんなときに行きますか



図書館によく行く子どもたちは、目的意識を持って利用しているとの結果でした。

### 質問 市の図書館へ「行かない」に○をつけた人に聞きます 行かないのはなぜですか



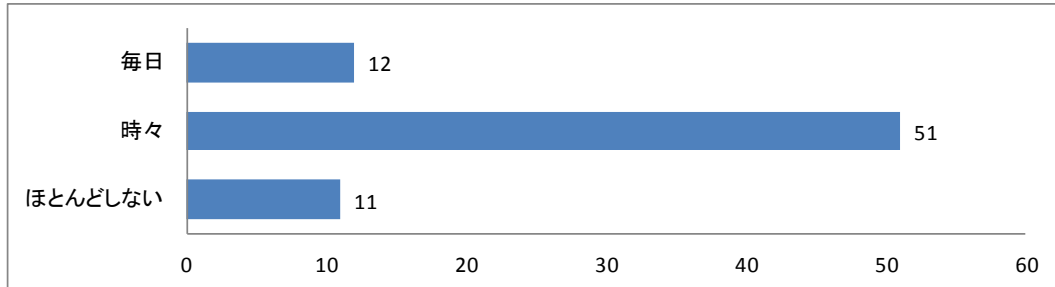
市の図書館に行かない理由として、「行く時間がない」、「本は買って読む」、「学校で借りる」の割合が高い結果となっています。小学5年・中学2年生は「読みたい本がない」が15%程度となっており、小学3年生より高くなっています。中学生は、「行く時間がない」と「本は買って読む」が25%を超えている結果となっています。

## (2) 保護者のアンケート結果

保護者は子どもの成長過程の中で、読書について何を必要と考えているのかを調査しました。

### 質問 家庭で読み聞かせなどをされていますか

(回答数：74人)



(人数)

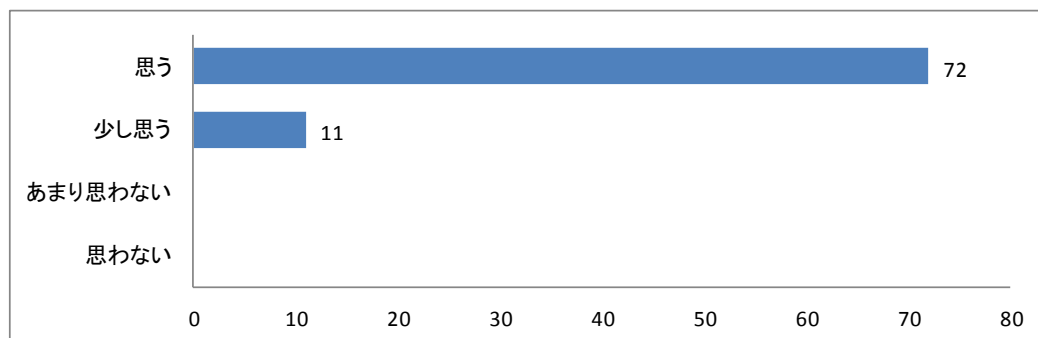
「時々している」と回答した保護者が51人(69%)とほぼ7割を占めています。

一方「毎日している」と答え、継続して子どもに読み聞かせをしている保護者は12人(16%)です。家庭での読み聞かせを行っていない保護者に理由を尋ねたところ、その理由は、「時間がない」が100%という結果でした。

子どもが本に親しむきっかけは家庭にあります。このため、様々な理由があるにせよ、保護者に対し家庭での読書活動の意義を広めていく必要があります。

### 質問 読み聞かせは、子どもの成長に役に立つと思われませんか

(回答数：83人)

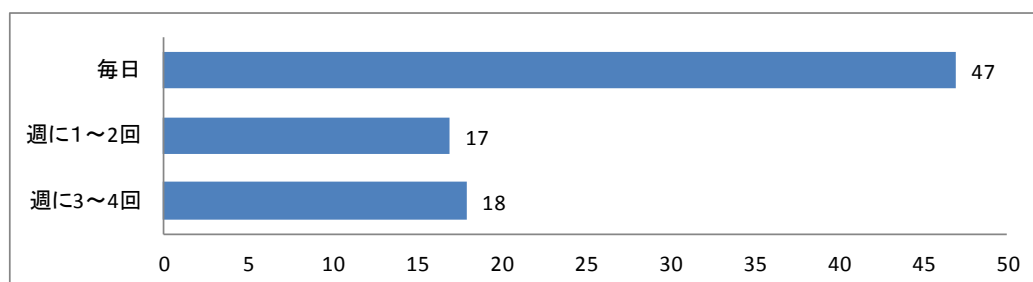


(人数)

読み聞かせは、子どもの成長に役に立つと考えている保護者は全体で72人(87%)を占めており、「役に立つと思わない」という保護者はいません。

### 質問 保育園・幼稚園での読み聞かせはどのくらいの頻度でしてほしいですか

(回答数：82人)

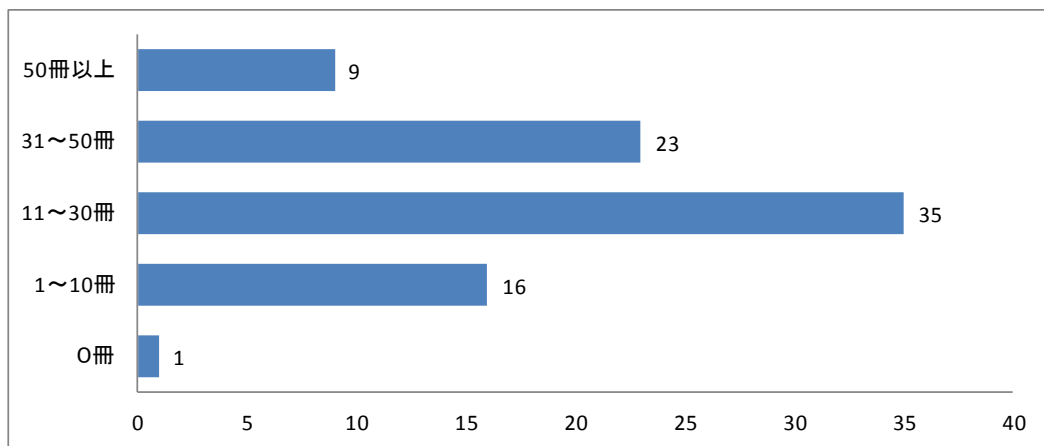


(人数)

保護者が保育園・幼稚園での読み聞かせを行ってほしい頻度は、「毎日」が47人(57%)と半数を超えており保育園・幼稚園への期待が大きいことが分かります。

**質問 家庭に絵本は、何冊くらいありますか**

(回答数：84人)

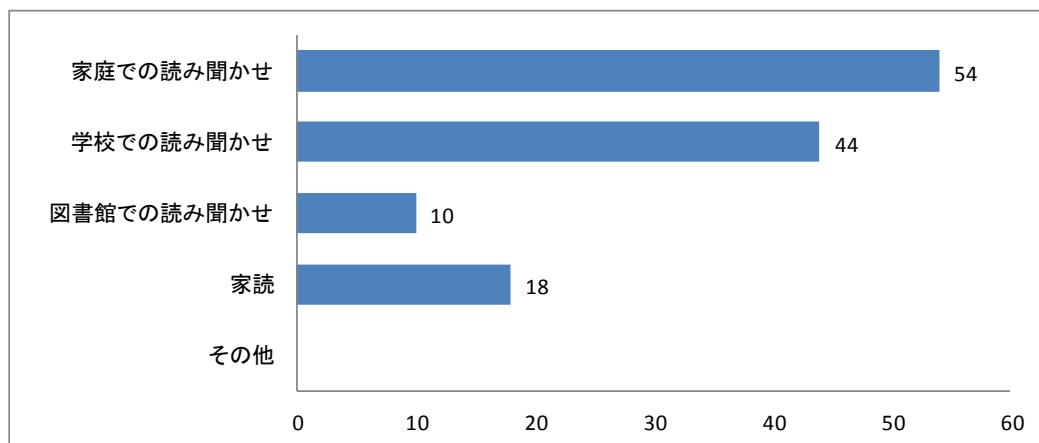


(人数)

ほとんどの家庭で子どもがいつでも読めるよう絵本があるという結果でした。

**質問 お子さんが小学生以降にも読書に親しむためにはどんなことをしたらいいと思いますか**

(回答数:126人 複数回答)



(人数)

小学生以降にも読書に親しむために「家庭での読み聞かせ」が必要と考えている保護者が54人(43%)と多く、次いで「学校での読み聞かせ」が必要と考えている保護者は44人(35%)、「家読」は、18人(14%)という結果でした。

学校や図書館での読み聞かせについて要望する保護者が54人(43%)と家庭以外での期待も大きいことが分かります。



にこにこルーム（ブックスタート関連事業）



自動車図書館「本丸くん」巡回



出張おはなし会



## 第4章 これからの子どもたちの実りある豊かな読書活動に向けて ～第二次小城市子どもの読書活動推進の基本方針～

第二次推進計画は国の「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」、「小城市教育振興基本計画」、「小城市生涯学習振興基本計画」をもとに第一次推進計画の取り組み状況とその成果の検証結果とアンケートの結果を踏まえて作成しました。

### 1. 基本方針

小城市総合計画の将来像である「薫風新都<sup>くんぷうしんと</sup>」みんなでつくる・笑顔あふれる

小城市の実現を目指す小城市教育振興基本計画の基本目標は「城創伝心<sup>じょうそうでんしん</sup>」です。

「城創伝心」とは小城の歴史と伝統を受け継ぎ文化を創造する豊かな心を育み後世へ伝える人づくりをめざしています。この城創伝心の重点目標のひとつとして《読書をとおした豊かな感性と広い教養の育成》を掲げており、第二次推進計画では、《読書をとおした豊かな感性と広い教養の育成を行う環境づくり》をめざします。

### 2. 計画の目指すもの

《読書をとおした豊かな感性と広い教養の育成を行う環境づくり》

この計画は上記の方針を達成するために以下の5つの項目ごとに今後の取り組みを掲げています。

- (1) 家庭における子どもの読書活動の推進
- (2) 地域における子どもの読書活動の推進
- (3) 学校等における読書活動の推進
- (4) 民間団体の活動に対する支援
- (5) 普及啓発活動

### 3. 計画の期間

平成27年度から概ね5年間とします。なお、社会情勢や小城市内の読書環境を考慮しながら、必要に応じて見直しを行うこととします。

## 第5章 子どもの読書活動の推進のための具体的方策

### 1. 家庭における子どもの読書活動の推進

#### ○現状と課題

ほとんどの家庭に絵本があります。保護者は読み聞かせは子どもの成長に必要であるという認識ですが、実際には1割の保護者が時間が

ないなどの理由で行われていません。子どもたちは家で本を読む機会が多く、子どもが本に親しむきっかけは家庭にあるので、保護者に対し家庭での読書活動の意義を広めていく必要があります。家庭で本を読み聞かせるのは母親が多く、父親は少ない状況です。小学生以降にも読書に親しむためには幼児期の「家庭での読み聞かせ」が必要です。

〈具体的な取組〉

- ① にこにこルーム（ブックスタート関連事業）の開催
- ② ブックリサイクルの実施
- ③ 自動車図書館「本丸くん」の巡回
- ④ 市民図書館の蔵書（読み聞かせ用）の充実
- ⑤ 親子で参加できる読み聞かせの実施

## 2. 地域における子どもの読書活動の推進

小城市民図書館

○現状と課題

市民図書館は2館、2分室、1自動車図書館で図書サービスを市内全域で行っています。しかし、小・中学生では学年が上がるにつれて、市民図書館を利用しない子どもが増える傾向にあります。その理由は小学生では「利用の仕方がわからない」、「場所がわからない」の割合が高く、中学生では「行く時間がない」などの理由です。利用促進のため子どもたちへ市民図書館の情報提供が必要です。

学年が上がるにつれてインターネットへの関心が高まっており、電子書籍の導入も検討が必要です。

### （1）市民図書館における子ども子ども読書活動の推進のための取り組み

〈具体的な取組〉

- ① 子どもたちへの市民図書館の情報提供
- ② 一日図書館職員体験
- ③ 幼稚園・保育園・小学校・児童センターでの読み聞かせ・おはなし会
- ④ にこにこルーム（ブックスタート関連事業）各町保健福祉センター
- ⑤ 学校図書館との連携・協力、団体貸出・合同研修会の開催
- ⑥ 市内のおはなしボランティアグループとの連携、魅力あるおはなし会の開催

### （2）子どもの読書活動推進のための市民図書館の機能強化

〈具体的な取組〉

- ① 牛津分室の移転・リニューアルオープン
- ② ティーンズ対象の資料の充実
- ③ 電子書籍導入の検討
- ④ 自動車図書館「本丸くん」の幼稚園・保育園・小学校への巡回
- ⑤ おはなしの部屋の開放、利用の促進
- ⑥ 障がいのある子どものための諸条件の整備・充実  
点字資料、大活字本、映像資料などの充実
- ⑦ 司書の配置と研修  
国・県開催の研修会・講習会への積極的な参加

### 3. 学校等における子どもの読書活動の推進

#### (1) 幼稚園・保育園等

##### ○現状と課題

すべての施設で図書室や絵本コーナーがあり、読み聞かせが行われています。子どもたちへの読み聞かせは幼稚園・保育園の先生が3割を占め、幼稚園・保育園の熱心な取組の成果といえます。保護者が保育園・幼稚園での読み聞かせを行ってほしい頻度は毎日が半数を超え、保育での読み聞かせへの期待が大きいことが分かります。

##### 〈具体的な取組〉

- ① 子どもが本に興味を持ち、親しむことできる環境の整備・充実  
蔵書の充実
- ② おはなしボランティアグループによる読み聞かせ

#### (2) 小学校・中学校

##### ○現状と課題

学年があがるにつれ読書が嫌いという子どもが増えています。低学年のときの読書週間が継続していくような支援が必要です。中学生では部活や宿題などで本を読まない子が増えています。家で読むことのほかに教室や学校の図書室など学校内での読書も多いようです。

##### 〈具体的な取組〉

- ① 児童生徒の読書習慣の確立・読書指導の充実
    - ・学校図書室の所蔵図書の充実、市民図書館とのネットワークによる相互貸借の実施
    - ・全校一斉の読書活動
    - ・推薦図書コーナーの設置
    - ・読書量の目標の設定
    - ・学校図書室を活用した授業の実施
- 国語・社会・理科・総合的な学習の時間、特別活動での利用

- ② 障がいのある子どもの読書活動の推進
- ③ 家庭・地域との連携による読書活動の推進
  - ・地域のおはなしボランティアグループと連携した読み聞かせや授業前の「朝の読書」の実施
- ④ 子どもの読書活動推進のための学校図書室の機能強化
  - ・資料等の整備・充実
  - ・施設の整備・充実
  - ・情報化
- ⑤ 学校図書室の活用を推進していくための人的配置の推進
  - ・司書教諭の配置
  - ・学校司書の能力の向上 研修会・講習会への参加

#### 4. 民間団体の活動に対する支援

##### (1) おはなしボランティアグループの支援・連携

###### ○現状と課題

市内にはおはなしボランティアグループ(13団体)が活発に活動されており、平成25年4月に「小城市おはなし協議会」が設立されました。

〈具体的な取組〉

- ① 団体への支援、おはなし会開催などの連携を行います。
- ② 交流会を開催し、おはなしボランティアグループ相互の情報交換や研修などを実施します。

#### 5. 普及啓発活動

##### (1) 子どもの読書の日※を中心とした取り組み

###### ○現状と課題

「子どもの読書の日」にあわせ子どもに関する絵本の展示や大きなおはなし会を実施しています。また、スタンプラリーなどの行事を開催し読書推進につながるよう取り組んでいます。

≪具体的な取組≫

「小城市子どもの読書の日」・「小城市子どもの読書推進月間」の創設

小城市民図書館では、小城市教育委員会が6月の第二日曜日に実施している「小城市教育の日」にあわせて「小城市子どもの読書の日」を創設し、また11月の「小城市文化と教育に親しむ月間」にあわせて「小城市子どもの読書推進月間」を創設し、イベントなどを開催し子どもの読書の推進に取り組めます。

※「子どもの読書の日」(4月23日)

**(2) 各種情報の収集・提供**

- ① 市民図書館のホームページの充実
- ② 市報での情報提供

小城市教育委員会

小城市民図書館

TEL 0952-72-4946

FAX 0952-72-1828

E-MAIL [tosyokan-mikatsuki@city.ogi.lg.jp](mailto:tosyokan-mikatsuki@city.ogi.lg.jp)